放課後の校舎裏――。
バイトのある俺は、友達に別れを告げて学校を出ようとしたところで、クラスメイトの一人に声をかけられた。
そして、その子に連れられるまま、この場所までやってきていた。

ごめんねー……
わざわざ呼び出したりして
いや、それは別にいいけど
……で、どうしたの？
彼女の名は、西条ミキ。今年から同じクラスとなったわけだが、入学当時からその可愛さで男子の間で話題にのぼる人物であった。
ただ、それは良いものばかりではなく、「援交をしている」「この前、おっさんと腕を組んで歩いていた」など悪いものある。

他にも、だれそれの先輩が、いくら金を払ったらヤラせてもらえた。
学校を移った◎◎先生は彼女と関係があった……などなど
そういう話題がある度に、男子たちは盛り上がったりしたものだ。
もちろん、俺もダメだと思いながらも、もしその噂が本当ならワンチャン狙いたい
という気持ちがあった。

しかし、いざ西条ミキを目の前にすると、そんな確証もないお願いを切りだせる
わけもなく、たとえ本当であったとしても「金払うからヤラせて？」という勇気
もなく、ただのクラスメイトとして時間だけが過ぎていっていた。

そんな西条ミキから、まさかのお誘いの上、人目につかない校舎裏である。
もしかして……ひょっとすると……西条ミキは俺のことを……

あ……最初に言っておくけど
告白とかじゃないから

ですよねー……

じゃあ、一体なんの用なの？
まったく見当がつかないんだけど……

うん、それなんだけどさぁ……
河田くんって一人暮らししてるって本当？

？　……まぁ、そうだけど？

へぇ本当だったんだぁ……
じゃあさ、今日泊まらせてくれない？

彼女は何を言ってるんだろう？

いやいや……え？
どういうこと？

だから、私を泊まらせてほしいの

えーっと……なんで？

私、今家出中でね……友達の家とか
ネカフェとかを転々としてたんだけど
それも限界になっちゃって……

そんなとき、河田くんが一人暮らししてるって
聞いたから、同じクラスメイトとして
泊めてくれないかなぁと思って

いや、さすがに彼女でもない
女の子を泊めるのは……俺も男だし。
過ちが起こらないとも限らないでしょ

そうなの……か？

まぁそこはほら……
なんとかなるでしょっ！

そうだよっ！　だから、ねっ！
お願いっ！　私、河田くんしか
頼れる人がいないのっ！

そんな風にぐいぐいと迫りくる美少女を相手に、童貞である俺がきっぱりとNOを
突きつけることができるだろうか、いやできない！

わかったからっ……
その代り、狭くても文句言うなよ？
あと近いっ

え……いいの？　本当に？
やったぁ……河田くん、優しいね

じゃあ、これ私の番号ね
バイトが終わったら連絡ちょうだい
いつまででも待ってるから♥

そう言って西条ミキは、俺の前から去っていった。

その後、俺も急いでバイト先へと向かったわけだが、
バイト中は西条さんの言葉が頭の中をグルグルしっぱなしだった。

本当に西条さんは俺の家に泊まるつもりなのか。
もしかしたら、ドッキリとかで笑い者にされるのではないか。
それなら、いっそ無視するか……
でも、もし本当なら西条さんはずっと俺を待ち続けることになる。

色々悩んだ末、
結局、俺は西条さんへと連絡した。

そして、目印となる公園で合流したのち、
俺は西条さんを自宅へと招いた。
泊まるところを探していたというのは本当らしく、
俺はドッキリでないことにほっとした同時に、この
一晩がどうなるのか別の意味で悩み始めることになる。

そんな俺とは対照的に、西条さんは晩御飯を作る気でいたようで、近くの
スーパーやらで食材を買ったのち、自宅へ入るやいなや料理を始めた。
その手つきは慣れたものであり、俺は呆気にとられるばかりだった。

ジュウ
ジュウ

……西条さんって、料理できたんだ

えー……その言い方ひどくない？

ジュウ
ジュウ

あーごめん。でも、自炊するより外食で済ませる方がお手軽でしょ……て感じだったから意外で

しかも、マイエプロンまで

ちょっとグッときたでしょ？
男の人って、こういうギャップ？とか好きな人
多いって聞くから、エプロンもお泊りセットに
入れてるんだよね

はぁー……なるほど

ジュウ
ジュウ

フフン♪

河田くん……私の料理姿が
色っぽいからって惚れるなよー？

そんなことぐらいで惚れねぇよ！

えーっ……本当かなぁ？
その割に顔が赤いぞ、河田くん？
正直にお姉さんに言ってみ？

誰がお姉さんだよ……タメじゃん

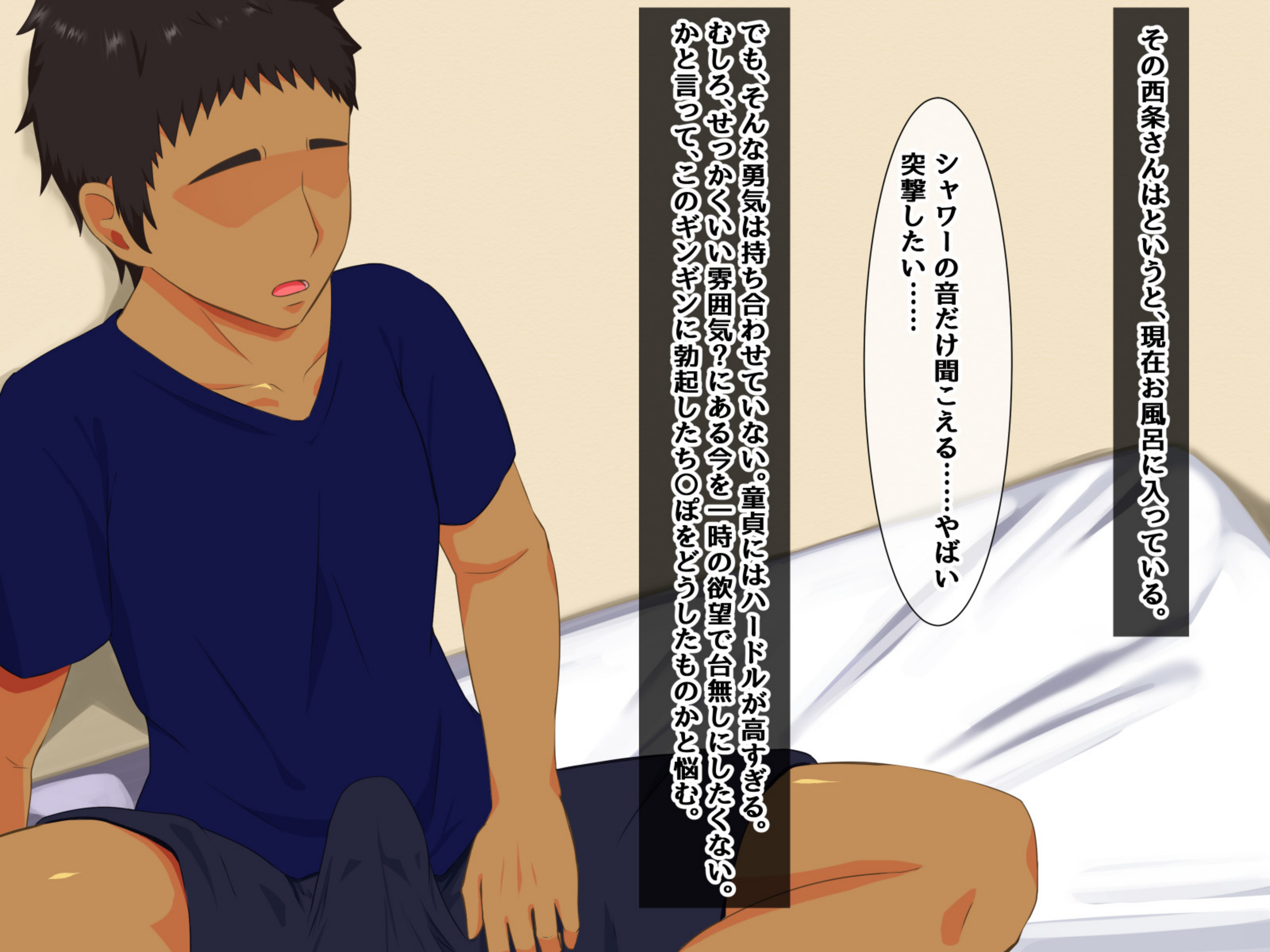
ノリじゃん、ノリっ！
と言ってる間に料理もできたよ
多分、これ食べちゃうと強情な河田くんも
私に惚れちゃうだろうなぁ

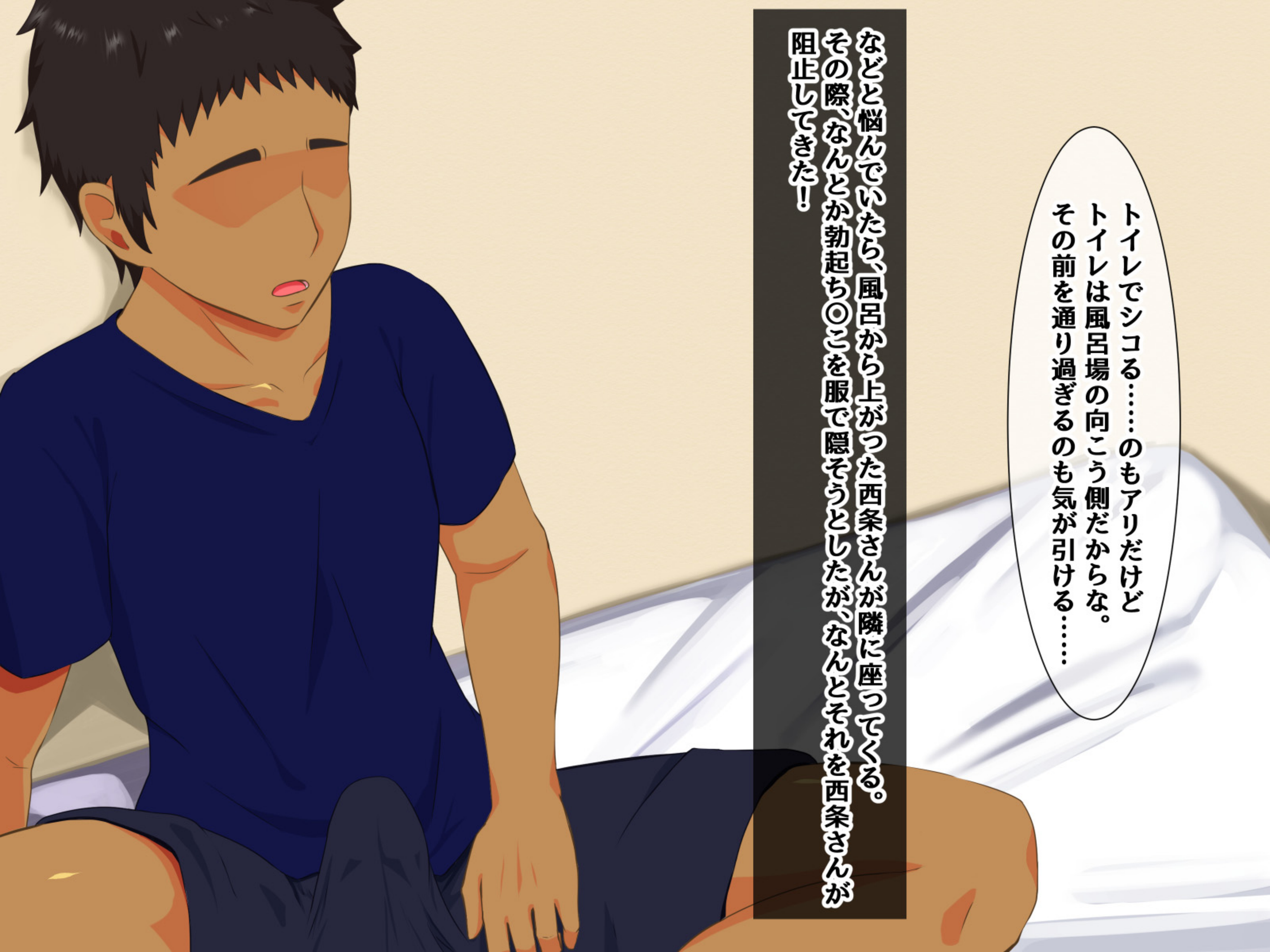
どんだけ人を惚れさせたいんだよ……

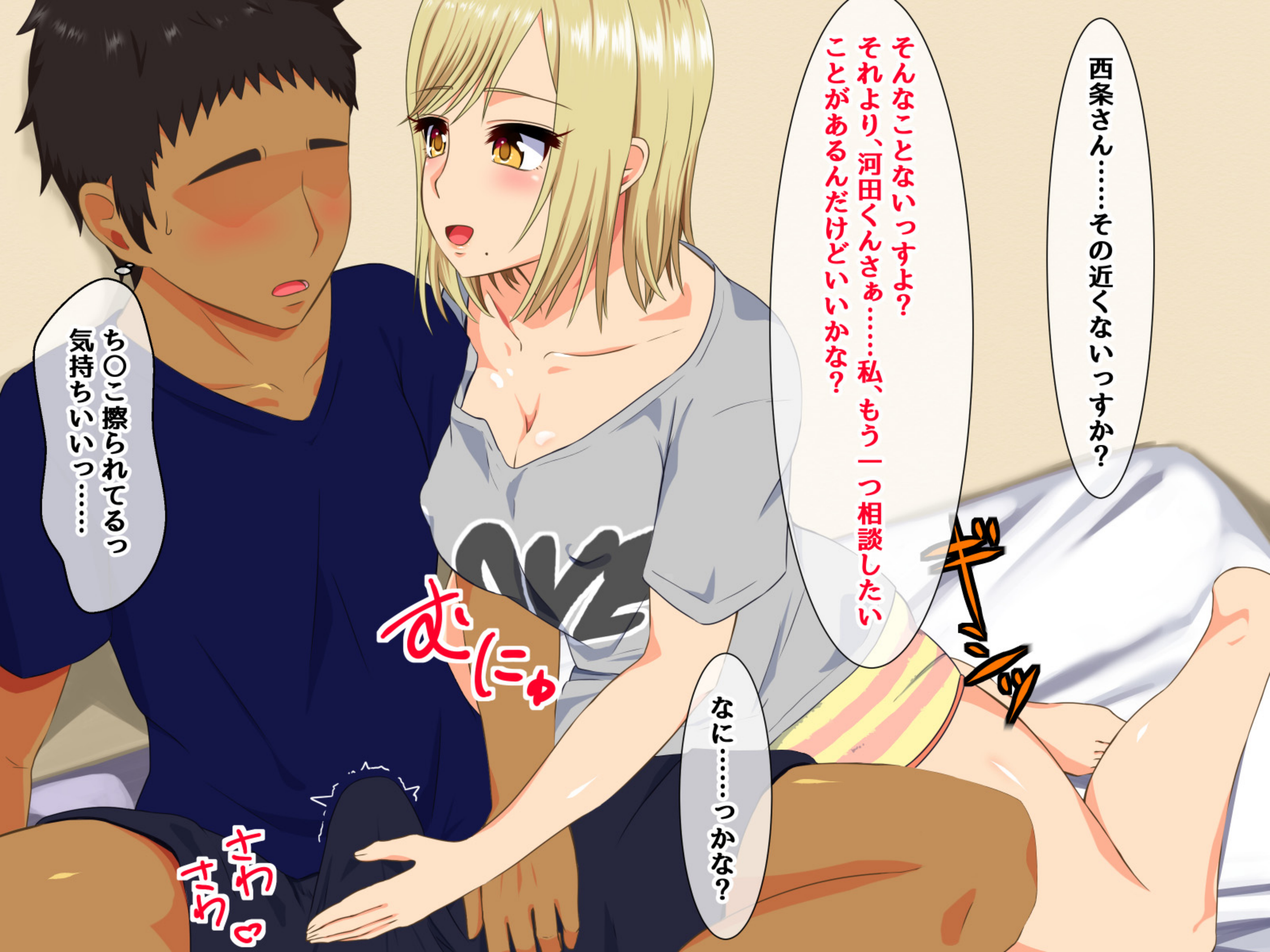
フフン♪

ジョウ
ジョウ

その後、二人で西条さん手作りの料理を食べたが、正直マジで美味かった。
料理をギャップ萌えで利用しているだけかと思いきや、その料理自体も美味い。
さらに、それを伝えると「よかった」と微笑む西条さん。
その笑顔にグラッときたのは、仕方ないことだと思う。
くっそー……俺もあんな彼女が欲しいなぁ。
てか、西条さん……俺の彼女になってくれないかなぁ……
カワイイし、料理できるし、(噂では)エロエロだし、
おっぱいもでかいし、言う事なしじゃん。
思い出しただけでち〇こ勃つわ


その西条さんはというと、現在お風呂に入っている。
シャワーの音だけ聞こえる……やばい
突撃したい……
でも、そんな勇気は持ち合わせていない。童貞にはハードルが高すぎる。
むしろ、せっかくいい雰囲気?にある今を一時の欲望で台無しにしたくない。
かと言って、このギンギンに勃起したち◎ぽをどうしたものかと悩む。


トイレでシコる……のもアリだけど
トイレは風呂場の向こう側だからな。
その前を通り過ぎるのも気が引ける……
などと悩んでいたら、風呂から上がった西条さんが隣に座ってくる。
その際、なんとか勃起ち○こを服で隠そうとしたが、なんとそれを西条さんが
阻止してきた！


西条さん……その近くないっすか？
そんなことないっすよ？
それより、河田くんさぁ……私、もう一つ相談したい
ことがあるんだけどいいかな？
ぎゅっ
なに……っかな？
むにゅ
ち○こ擦られてるっ
気持ちいいっ……
さわ
さわ

できれば……しばらくの間、泊めてほしいんだ。
もちろん、その間の家事とか私がやるからさ。
料理とかもちゃんと作るし

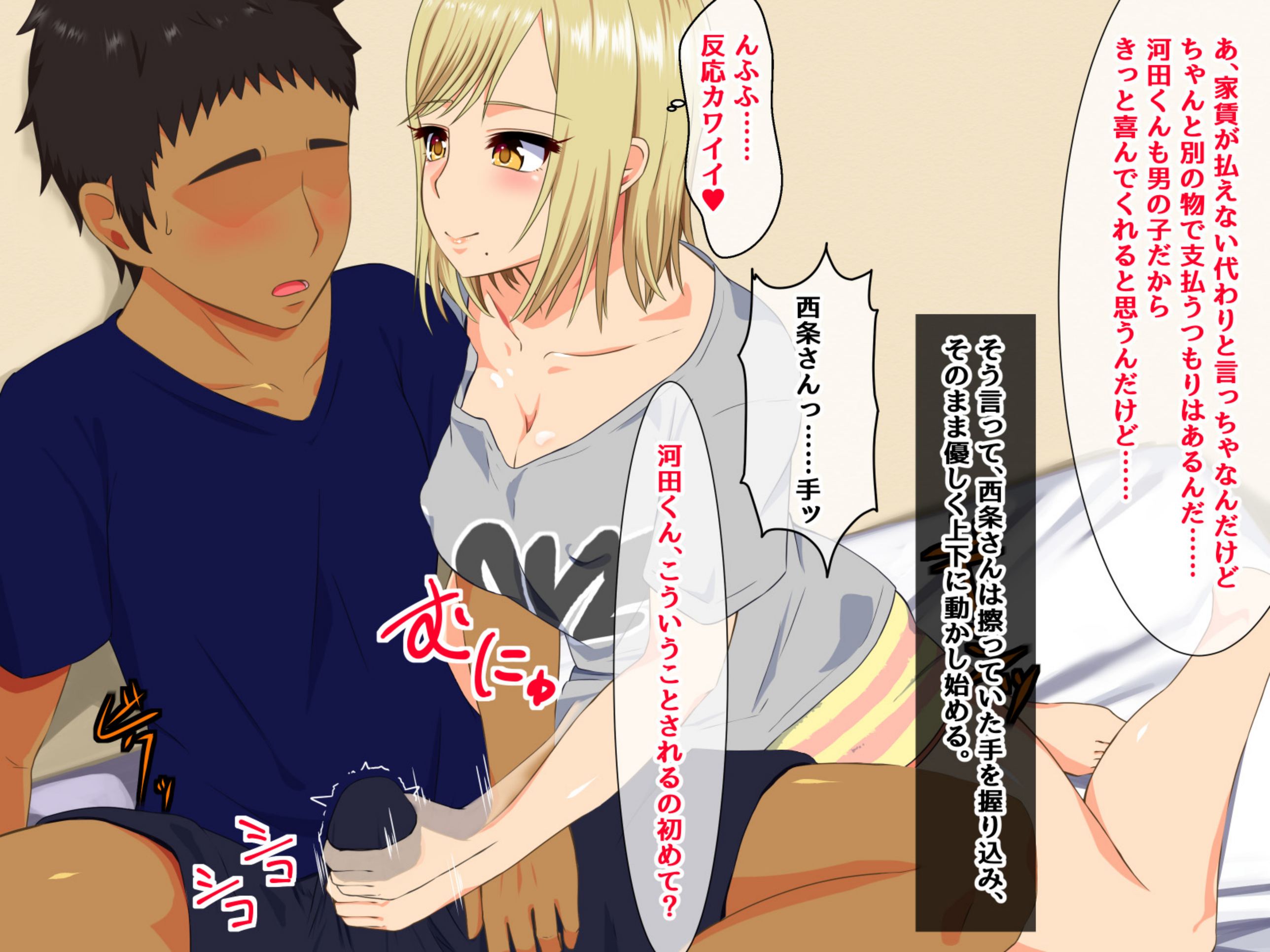
あ、今日だけじゃなく？

うん、今日だけじゃなく……
ちょっと家がごたついてて帰りたくないの
だから、もし河田くんの迷惑じゃなかったら、
落ち着くまでの間、私を置いてほしいなって

ぎゅっ

むにゅ

さわ♡
さわ


あ、家賃が払えない代わりと言っちゃなんだけど
ちゃんと別の物で支払うつもりはあるんだ……
河田くんも男の子だから
きっと喜んでくれると思うんだけど……
そう言って、西条さんは擦っていた手を握り込み、
そのまま優しく上下に動かし始める。
西条さんっ……手ッ
んふふ……
反応カワイイ♥
河田くん、こういうことされるの初めて？
むにゅ
シコ
シコ

まぁ……彼女とか、いたことないしっ

そっかぁ……じゃあ、私が初めてになっちゃうね♥
それでね、家賃とは別で払うっていうのは、つまり
こういうHなことを私の体で払おうかなと思ってる
んだけど……どうかな？

ま……まじでっ!?

つまり、あのときの「何とかなる」というのは、
自分から仕掛けるから大丈夫という意味だったのか！
ああ、手コキ気持ちいいっ！

むにゅ

ビクッ

シコ
シコ

ま・じ・だよ♥
泊めてくれる間は河田くんに
色んなことしてあげるから

私をしばらく泊めてくれないかな？　だめ？

あぅっ……
い、いやダメじゃないっす

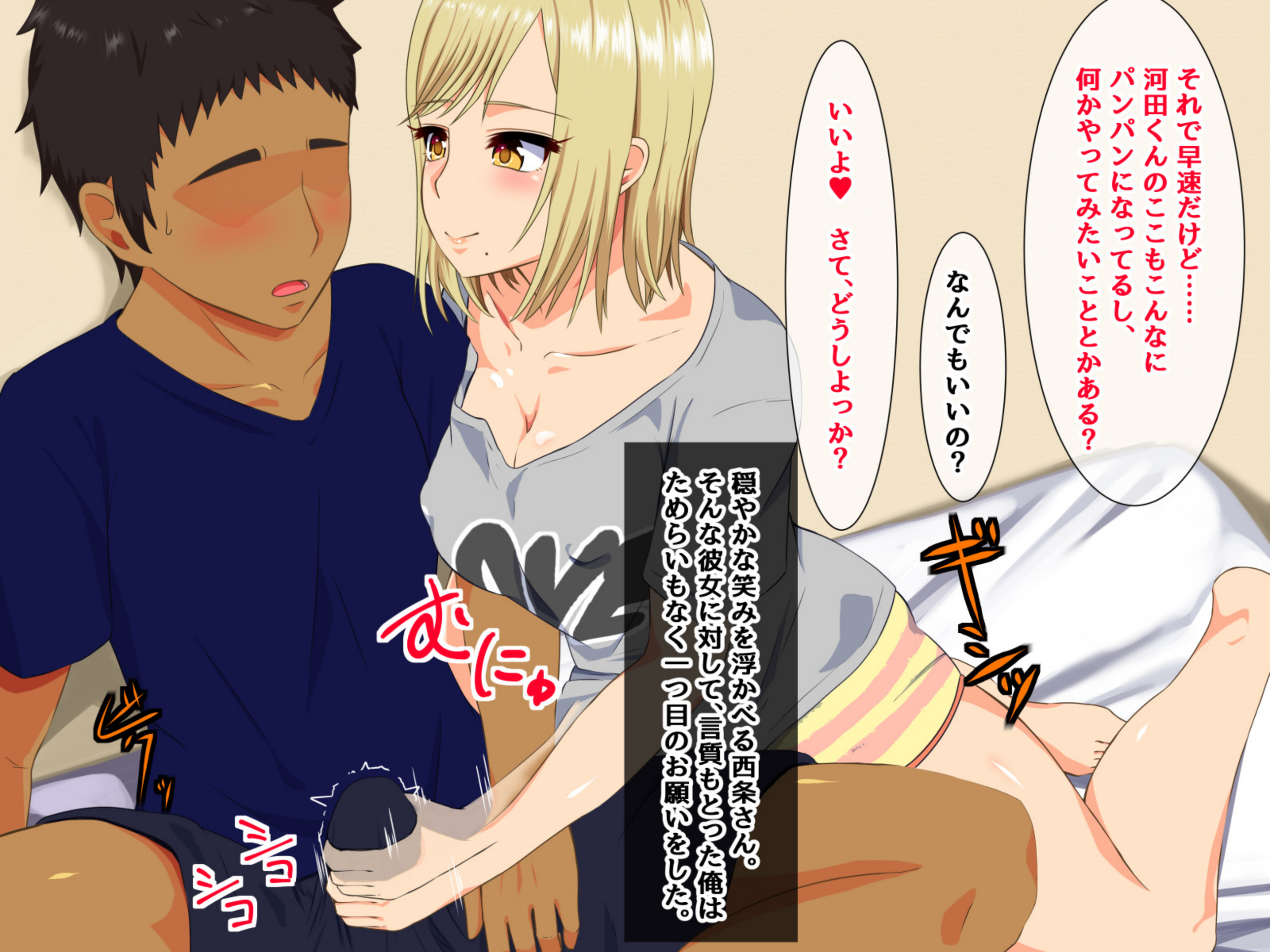
わぉ即決？　河田くん、やっさしー♥
それともスケベなのかな♥？　それじゃ、
これから色々とよろしくね♥

ギュッ

むにゅ

ギュッ

シコ
シコ


それで早速だけど……
河田くんのここもこんなに
パンパンになってるし、
何かやってみたいこととかある？
なんでもいいの？
いいよ♥　さて、どうしよっか？
穏やかな笑みを浮かべる西条さん。
そんな彼女に対して、言質もとった俺は
ためらいもなく一つ目のお願いをした。
むにゅ
ギュッ
ギュッ
シコ
シコ

うわぁ……柔らかっ
これが、西条さんのおっぱい……
んふふー……そうだよー？
私、おっぱいには自信があるんだ。
それで、初めて触ってみてどう？
いやもう、ずっと触ってたいくらいに
気持ちいいよ。
あとすっごい興奮する
むにっ
もにゅ♡
ぎゅっ♡

一つ目のお願いは、ずっと気になっていたおっぱいを触りたいというものだったが、西条さんは即OKを出してくれた。

はぁ……はぁっ……

大丈夫、大丈夫……

くすっ……河田くん、息荒いよ？大丈夫？

むにっ

もにゅ♡

もみっ

爆乳と言っても過言ではない西条さんのおっぱいを揉んでいるのだ。これで興奮しないわけがない。手の中でタプタプと形を変えるおっぱいは、視覚的にも更なる興奮を呼び起こす。
西条さん……その、直におっぱい触りたいんだけど……
ん……いいよ♥じゃあ、脱がせてくれる？
むにっ
もにゅ♡
もみっ

そして、西条さんのTシャツをめくり上げると
ぷるんと揺れる極上のおっぱいが顔を出した。

うん

これが生のおっぱいっ……
肌もスベスベで吸い付いてくる

あ、んっ♥
優しくしてね♥
あんまり強く揉まれると痛いから

むにっ

ぷるっ♡

もにゅ♡

ぷるっ

もみ。

それから、生のおっぱいの感触を楽しむが、その先端にあるサーモンピンクの乳首からも目が離せない。
気が付いたときには、もう自然と口に含もうとしていた。

もにゅ♡

ピクン♡

あはっ……
河田くんの息、くすぐったいよ～♡

にこっ

ご、ごめん
……その乳首舐めて良いかな？

ピクッ

どうぞ、召し上がれ♥